

1月・2月の管理ポイント

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第85号



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。
 去年は、**抗ストレス剤『レボ』**を多くのゴルフ場の皆様にご利用頂きまして、
 誠にありがとうございました。

弊社では、昨年使用して頂いたゴルフ場様にアンケート調査を実施し、幅広いご意見を頂きまして、
 今後の『レボ』の更なる使用向上に努めていきたいと思っております。

本号では、春先の『レボ』の管理ポイントと光合成細菌を組み合わせた土壌環境改善を紹介します。

春先(3~5月)



春の水管理が芝生の根をしっかりと伸ばすポイントです!!

レボは**土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆います**ので、土壌中の空隙率がアップし、表層の過湿を防ぎます。

この効果が、グリーンの表層を少し乾燥気味にし、根に軽いストレスを与え下層にある水分まで伸ばさせます。

定期処理することによって、根が下に伸びやすい環境を整えてやり、夏が来るまでにしっかりと根を伸ばしておきましょう。

4月よりベントの本格的な生育最盛期になります。レボ+光合成細菌を定期処理することで土壌表層の通気性を確保し、昨年末から蓄積されてきた悪臭物質を減らしていきましょう。また地温の上昇に伴い、土着菌の活性も上がって行きます。

最初に土着菌の勢いを付けさせるために、動物性アミノ酸たっぷりのマリンパワーを処理して、土壌を動かしておきましょう。

使用量：レボ	2ml/m ²	散布水量：200ml~1L/m ²	散布回数：1ヶ月に1回
光合成細菌	1~10ml/m ²	散布水量：1L/m ²	散布回数：1ヶ月に1~2回
マリンパワー	2ml/m ²	散布水量：1L/m ²	散布回数：1ヶ月に1回

サンド以外(排水の悪い)の土壌中の塩類問題

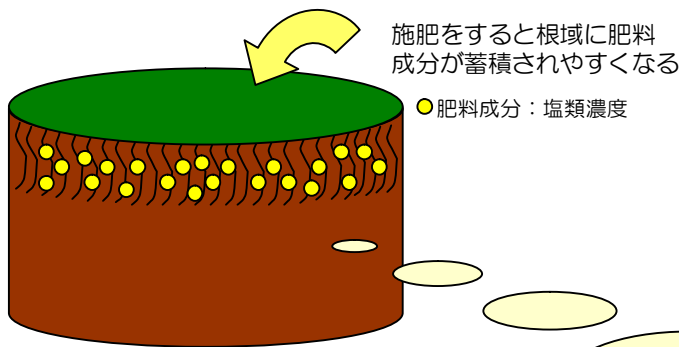
グリーン管理を行う上で、発根を促進させるために土壌を乾燥気味に維持する時期があるが、土壌の乾燥化と肥料成分の蓄積のし易さは相関関係にある。

一般的なサンドグリーンの場合、むしろ肥料の流亡が多くなるので問題はないが、**サンディー**や**土質のグリーン**で注意が必要になる。

肥料成分が蓄積され、土壌中の塩類濃度が高くなると根の働きが妨げられ、水分やカルシウムの吸収が阻害される。

また施肥のし過ぎによる過剰養分も、土壌中の無機成分同士の吸収阻害を引き起こす。

乾燥気味に管理されたグリーン

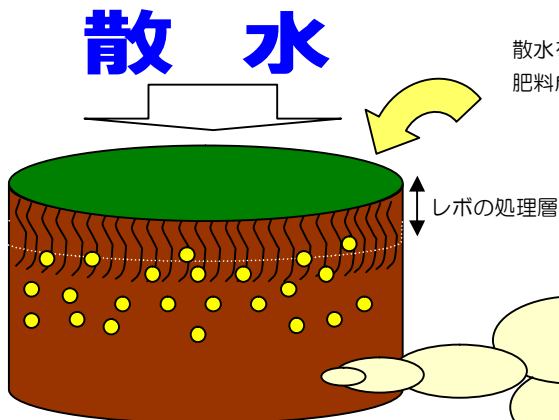


無機塩類同士の相性

- 過剰のアンモニア、マグネシウム → × カルシウムの吸収
- 過剰のカリウム → × マグネシウムの吸収
- 過剰のリン、マンガン → × 鉄の吸収

しかし、春の生育期に軽度の乾燥ストレスを与えて発根促進させることは必要

土壌の塩基類を取り除く!!



散水量が増えても、レボの処理層があれば、グリーン^の土質に関係なく余分な水は下に流されるので、表層の通気は確保でき、尚且つ土壌中の停滞水が解消される